

組合員の皆様

2010 年 6 月 16 日
ニフティ労働組合 執行委員長
池田 大

今次春闘の取り組み、および 2011 年度の一時金について会社側との交渉内容をご連絡いたします。
なお、今次春闘も、ニフティ労働組合は、上部組織である電機連合、全富士通労働組合連合会の統一闘争に参画する立場で労使交渉に臨んでおります。

■背景

2010 年度は皆様ご存知のように 3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響により、日本経済に深刻なダメージを与えております。中でも電力不足が与える影響は甚大で、今夏に予想される深刻な電力不足の影響は、東日本のみならず、西日本へも波及しつつあります。

このような状況の中、富士通グループも震災の影響を大きく受け、9 つの製造工場が一時操業を停止するなどの大きな被害を受けました。災害による損失としては 116 億円の特別損失を計上しており、2011 年度も厳しい状況におかれております。

一方、ニフティグループでは、震災による業績への影響は比較的少なかったものの、減免施策や広告の掲載自粛などによる売上減がありました。2010 年度の業績は前年度比増収増益、かつ営業利益に関しては期初予算、上方修正した予算も達成いたしました(売上高 1,035 億円、営業利益 37.32 億円)。また、2011 年度の業績予想に関しては、震災の影響も考慮し、売上高 950 億円、営業利益 45 億となっています(減収増益)。

■+α 交渉内容

今次春闘では、3 月 23 日に「4. 6ヶ月+α」の回答を会社側から受領し、業績確定後の 5 月中旬から事務折衝を再開しましたが、労使での業績に対する認識のギャップが大きく、事務折衝は難航を極めました。

会社側の提示は 3 月 23 日の時点から+0. 2カ月となる「4. 8ヶ月」でした。これは昨年度の確定月数である「4. 7カ月」から+0. 1ヶ月となりますが、営業利益が 9 億円増加していることを考慮すると 2010 年度決算の利益配分として適正ではないと考え、提示にいたった背景を確認いたしました。

これに対し、今期業績ならびに賞与の月数に関する会社見解は以下のとおりでした。

(今期業績について)

- ・クラウド事業は順調に成長し、予算を上回る結果を出した。シュフモなどのサービスも益転はしていないが、成長している
 - ・一方で ISP については市場の飽和に伴い、成長が鈍化しており事業構造としてのアンバランスさは依然残ったままである
 - ・増益については、FENICS など回線原価や払販費などコスト削減によるところが大きい
- ※FENICS の回線原価削減は 2011 年度にも継続して行われ、1 年間の削減額としては 2010 年度を

大きく上回ります。

・2010年度の業績は組合員の努力なしには達成できなかったことは、労使共通認識である。

(賞与の月数について)

・業績が好調である点については、昨年度確定月数から+0.1ヶ月増加させている点で組合員の努力に報いる形としている。

・増益についてはコスト削減が主な要因であり、事業構造の転換ができていないことから、幹部社員に対しても大幅な増額は行わない。

これらを確認する中で終始、全社会議で社員に発せられたメッセージ内容と、春闘における業績見解に相違が見られる点の懸念が払拭できずにおりました。この点については、今後十分に配慮していただけることを確認しております。

会社業績に関する見解については、一定の理解を示すことができる内容であり、また、以下の点も合わせて確認できたことから、今次春闘においては、状況を鑑み、5月31日に4.8ヶ月で妥結にいたりました。

・2010年度の業績は組合員の努力なしには達成できなかったこと

・業績は好調であるが、増益についてはコスト削減が主な要因であり、事業構造の転換ができていないという現状

・富士通グループであるニフティの今期の営業利益増額分の多くが、FENICSの回線原価削減によるものであるが、グループ内4.8ヶ月は富士通グループの中では高い水準(富士通:4.65ヶ月)であること

なお交渉の中で、キャッシュフローが大きく改善し、現金および現金同等物の期末残高が大きく膨らんでいる点について、今後会社の成長のためにどう使っていきたいか確認し、以下の回答を得ております。

・M&Aを検討している。ただしこれはニフティにとって今までにない苦手な分野だから慎重に行う必要がある。

・幸い会社移転については、大きくお金を使うことはない。しかしこのタイミングは働き方を見直すチャンスと考えている。そのことにはお金を使っていきたい

・教育などについては、個人が資格などを取ることにについてはあまり力をいれるつもりはない。ただし、個人で行うことが難しい教育には力を入れていきたい。

また、今後は、一時金を一律で決める取り組みを新評価報酬制度の施行にあわせて変えていきたい

という思いの共有も受けております。この方法が適切なかどうか丁寧に検討していきます。

■まとめ

ニフティの 2010 年度業績は増収増益となり、営業利益においても期中に上方修正した目標を達成することができました。事業としては、ニフティクラウドが順調に成長し、予算を大きく上回る結果を出し、シュフモの会員数が 100 万人を突破するなど、ISP 事業からの脱却として大きな一歩を踏み出したと思っております。

2011 年度はニフティ 25 周年の年であり、会社移転やワークスタイルの見直し、そして 2012 年度からは新評価報酬制度を開始したいという会社の思いがあります。これらの背景には、ニフティの今後の発展のためには変革が必要であるという会社側の認識があります。また、ますます競争環境は激化しており、2011 年度がニフティにとって重要な一年になることは疑いようがありません。

ニフティ労働組合も、変革が必要という方向性には同意するところでありますし、その変革の一翼を担っていけるような組織を目指さなければならないと考えております。

今後も、皆様が働きやすい会社になるように、今まで以上に丁寧な執行部活動を行うことをお約束いたします。

最後になりますが、ニフティの 2006 年度からの決算情報をまとめましたので、ご参考ください。

また、本見解は今次春闘の総括ですが、+ α 以外の受領結果については、以下の URL をご覧ください。

<http://union.office.nifty.co.jp/member/archives/000472.html>

以上